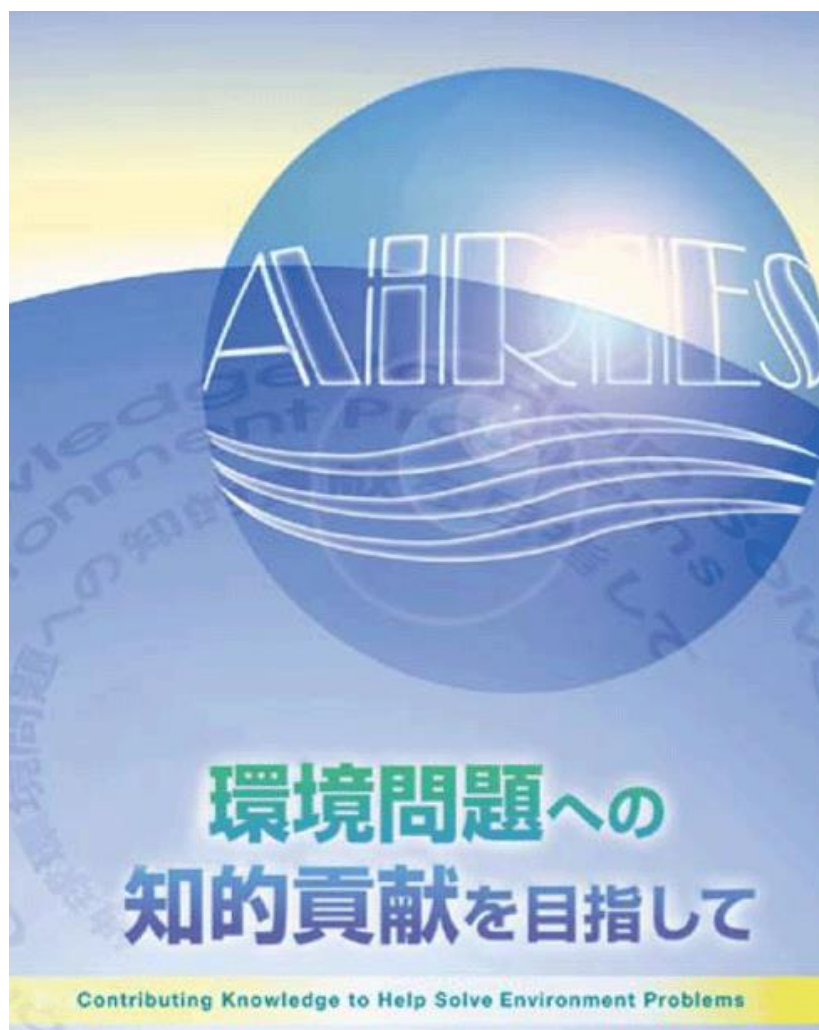


国際環境研究協会ニュース

AIRIES NEWS
AIRIES NEWS

2022年1月 第307号

新年号



CONTENTS

- 1 新年のご挨拶
- 2 協会業務報告
- 3 AIRIES 随筆 (123) 「食と旅と環境つれづれ話」 (4)
新田 裕史 (プログラムアドバイザー)
- 4 業務報告

新年のご挨拶

大塚 柳太郎(国際環境研究協会 会長)

明けましておめでとうございます。2022年の年頭にあたり、新年のご挨拶を申し上げます。

昨年は一昨年に続き、COVID-19感染に振り回されました。日本では昨年秋から感染数が顕著に減少したものの、世界の多くの国々では、デルタ株と置き換わり始めたオミクロン株の影響もあり増加が続き、年末から新年にかけて、感染対策の強化と日常活動への制約緩和の間で揺れ動くこととなりました。もっとも、日本でも年末から感染数がじわじわと増加し、オミクロン株への感染も増えています。もう一つ気になったのが、途上国と先進国の格差がワクチン供給などでますます拡大し、結果的にグローバルな感染リスクを高めた可能性が高いことで、今年はこの点への配慮も問われそうです。

環境に関わる最大の関心事は、1年延期されたCOP26がイギリスのグラスゴーで10月31日から開かれたことでしょう。コロナ禍にもかかわらず190を超える国から過去最多の4万人近くが参加し、首脳級の出席者も120名を上回ったことは、気候変動がますます進み多発する気象災害への危機感が増したことの反映です。

パリ協定が、世界の平均気温を産業革命前の2°C上昇に抑え、努力目標として1.5°C上昇を掲げたのに対し、COP26が「1.5°C」を共通目標に引き上げたことをポジティブに評価する意見が多いようです。とはいえ、その裏打ちともいえる石炭使用の「廃止」か「削減」かを巡り激論が続き、会期を延長した11月13日になって、アロック・シャルマ議長が「石炭火力発電の段階的な削減の努力を加速する」

との最終案に漕ぎつけたのです。

気候変動の今後については、シャルマ議長自身による「1.5°C目標は生きているとはっきり言えるが生命力は弱く、生存は約束の堅持と早急な行動にかかっている」との発言が的を射ているように思えますし、アントニオ・グテーレス国連事務総長も「私たちが化石燃料への依存を止めるか、それとも化石燃料への依存が私たちを止めるか」と、世界の指導者たちに警告を発しています。

一方で、UNFCCC(国連気候変動枠組条約)は、前述の「1.5°C」目標のほかに、COP26の成果を2つあげています。その1つが、気候変動への適応策の目標を明確化するプログラムの制作の開始と、そのために必要な途上国への技術支援の強化です。もう1つが、先進国が気候変動対策として年に1000億ドル拠出する約束を履行するための議論が進んだことです。これらの合意により、気候変動対策における先進国と途上国との協調が進むことを期待したいと思います。

当協会は本年も、環境省からの受託業務である環境研究総合推進費研究管理・検討委託業務、CO2排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業を中心に業務を進めます。気候変動をはじめとする環境問題が深刻化し環境研究への期待が増す中、当協会は環境研究の科学的・技術的推進の一翼を担うことを自覚し、活動を充実させる所存です。

改めて、当協会に対するご支援とご協力に感謝するとともに、皆さまのご健康と一層のご活躍を祈念申し上げます。



協会業務報告

徳田博保(専務理事)

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いたします。

昨年は、1年遅れで何とか東京オリンピックが開催されましたが、コロナ関連のニュースが絶えませんでした。

そうした状況を反映するように、漢字能力検定協会発表の「2021年の漢字」は、オリンピックから連想される「金」でしたが、英語辞書出版社が選んだ「2021年の単語」は、オックスフォードとメリアム・ウェブスターが「ワクチン」、ケンブリッジが「忍耐」でした。オーストラリアの Australian National Dictionary Centre は「strollout」という一般の辞書には載っていない単語を選んでいますが、オーストラリアでワクチン接種がなかなか進まない状況を示しているそうです。1年前も「パンデミック」、「ロックダウン」、「隔離」などが選ばれていて、「単語」は2年連続でコロナ絡みになってしまいました。

年末から世界的にオミクロン株が猛威を振るっていて、昨秋以降感染者数が少なかったわが国にも第6波が訪れてきているようです。新規感染者数が減少し一旦「収束」(院内感染のリスクが低減され、患者が安心して医療機関の外来を受診できる頃：厚生労働省 Q&A) したかに見えるのと経済活性化に重点が置かれ、その後再び感染が拡大するという繰り返しになっていますが、今年こそは完全制圧され、「終息」が2022年の「漢字」「単語」として選ばれておかしくない状況になってほしいものです。

コロナ禍ということもあるのか、年始の通勤風景は、かつてはちらほら見られた振り袖姿はほぼ「終息」し、華やいだ雰囲気はあまりありません。もっとも最近では暑くも寒くもなくともノーネクタイ

が目立ち、服装のカジュアル化が進んできているようです。クールビズ・ウォームビズに加えて、コロナ禍でテレワークが進んだことも影響しているかもしれません。現代では一般的な通勤服の背広もせいぜい百数十年の歴史のようですから、これからも変化する勤務環境に応じた服装に徐々に移り変わっていくことでしょう。

さて、協会の業務ですが、CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・実証事業では、11月下旬から12月にかけて評価委員会・分科会が開催され、中間評価等が行われました。過去に実施された事業のフォローアップ調査も行っています。「技術開発」し「実証」した後に「実用化・事業化」されることが重要で、その観点も含めた解析が行われています。

環境研究総合推進費関係では、追跡評価に係る書面調査、個別ヒアリング調査の結果のとりまとめを行っています。昨年3月にまとめられた制度評価報告書の提言等についてはフォローアップを進めてきましたが、ミディウムファンディング枠のように既に制度に反映されたもの以外についても、今後、逐次反映されていくこととなります。

マイクロプラスチック関係では、海洋表層マイクロプラスチックのデータベースのプロトタイプを関係者に利用していただき、そのフィードバックが寄せられてきています。それらも踏まえ、2月に開催される予定の本年度2回目の国際専門家会合の準備を進めます。このほか、ベトナムとの協力や国内学術界向けシンポジウムの開催に向けた準備も開始しています。

皆様のご健勝をお祈り申し上げますとともに、引き続き、ご指導・ご支援のほど、よろしくお願いたします。



「食と旅と環境つれづれ話」(4)

新田 裕史(環境研究総合推進費プログラムアドバイザー)

正月のおせち料理は地域によってバリエーションがあるようです。お雑煮の汁も醤油あり味噌あり、入れる餅の型も丸や四角などさまざまです。宮城県のお雑煮はハゼの焼干しで出汁を取るのが伝統とされていますが、私が子供の頃は生家では鶏ガラの出汁の方が美味しいと母がアレンジした雑煮になっていました。ただ、「ひきな」と称する大根と人参を千切りして軽く茹でてから凍らせたものを食べる時に出汁の入った鍋で戻してからお椀に入れるというやや手の込んだものに、セリ、凍み豆腐、紅白蒲鉾、伊達巻、餅、さらにトッピングとしてイクラや穴子と鶏肉の甘辛煮など、具たくさんという宮城の雑煮の特徴はそのままでした。「ひきな」は一晚屋外に置いて凍みらせていましたが、温暖化のためかきちんと凍まないということで、今ほどの家庭でも冷凍庫で凍らせていると思います。子供の頃は家で餅つきをしていました。つき手は腕に自慢の男性が、合いの手は女性が担当していましたが、見ていると両者がタイミングを合わせて、蒸かした餅米が熱いうちに餅にするスピードが肝心という技がありました。私が成人して、そろそろつき手をやらせてもらえるかもしれないという時期には電気餅つき器が普及してしまい、出番は回ってきません



でした。母に言わせると下手な人がつくよりも餅つき器の方が美味しい餅になるし、衛生的ということで、納得しました。餅つきの後、のした餅がある程度固まり、しかも完全に堅くならないうちに切るといかなりの重労働が待っていました。

私が子供の頃から食べ続け、今でもこだわりを持っているおせち料理に「ひきにしめ」というものがあります。東京でいうお煮しめとは見た目は全く違います。材料はゴボウ、人参、大豆モヤシ、高野豆腐、しらたき、刻みコンブ、ちくわの7種の具材で、それぞれ数センチの長さに細切りにして、濃口醤油ベースの汁で順番に煮て、全部を混ぜれば完成というものです。各材料の量はほぼ等分という感じです。材料のうち、大豆モヤシは緑豆モヤシで代用はダメです。以前は東京のスーパーなどで大豆モヤシを見つけるのは大変でしたが、ナムルの材料として需要があるためか最近をよく見かけるようになりました。高野豆腐は岩出山凍み豆腐という宮城特産のものを使うのが本来ですが、味の違いは許容範囲ですし、食感が高野豆腐の方が良いくらいです。岩出山は伊達政宗にゆかりのある町で、政宗が仙台に築城するまで城を構えていた場所です。「ひきにしめ」の材料自体にはそれほど特徴はないのですが、その特徴は出汁にあります。穴子の焼干しを濃口醤油、味醂、酒、砂糖(+水)でじっくり煮て、穴子の旨味を汁に移します。母が元気だった頃は年末になると穴子の焼干しが送られてきたのですが、最近は生の穴子を買ってきて、焼干しは自家製です。近所の魚屋で穴子を見かけることはほとんどないので、通販で入手するか、東京の魚屋で探すことになります。冷凍物は下処理が悪く、ひどく生臭さかったりするので要注意です。一度、穴子が入手できず、仕方なく普通の煮干しで作ったことがありましたが、全く別物の「ひきにしめ」になってしまいました。不味

いというよりも穴子の出汁の味が脳・舌に刷り込まれていて全く受け付けなかったというのが正しいかもしれません。ちなみに、出汁をとった後の穴子は雑煮のトッピングになります。雑煮にいれなくても、ひつまぶしのご飯に混ぜて食べると美味です。話が脱線しますが、北日本では穴子のことをハモと呼ぶ地域があって、我が故郷でもハモと呼んでいました。スーパーマーケットでは「ハモ（アナゴ）」という札がついていることがあり、ややこしいことになっています。

私が実家を離れて独立し、家庭を持ってからは妻が正月に「ひきにしめ」を作っていました。作り方は母からの口伝で、材料以外はすべて適当でよいと言われていたということです。それでよくおふくろの味を再現していたなど妙に感心してしまいました。料理を趣味とする私も昨年始めて「ひきにしめ」に挑戦しました。今年はレシピらしきものに書

き留めることにしました。レシピといっても、肝心なのは7種の材料を別々に煮るに十分な量の穴子の煮汁を用意することだけです。材料を煮ながら、煮汁が足りなくなったり、薄まれば足し、濃くなったら水で薄めるという、味の調整はお好みです。材料費のほとんどは穴子の値段です。「ひきにしめ」の材料には、大豆タンパクや食物繊維も豊富な食材が揃っていて、栄養も満点です。

「ひきにしめ」をネット検索すると宮城の郷土料理という記載が出てくるともあり、郷土料理としてお墨付きの雑煮の「ひきな」に通じるものがあるような感じもしますが、レシピも見つけられていないので、本当に郷土料理かどうかは定かではありません。正月に親戚の家で同じようなものを食べた記憶もはっきりしません。我が家の「ひきにしめ」のルーツは今のところ謎です。

協会ニュースに会員からの投稿を募集中

協会会員相互の交流の場として、会員の皆様からご執筆頂いた文章を掲載する「AIRIES 随筆」コーナーを設けております。内容は近況報告、趣味、雑感、研究状況、協会業務の改善の提案等、また、法人会員の場合には活動の紹介も含め、協会ニュースの1頁程度(約 1,300 字程度)を想定しています。

なお、本協会ニュースは、会員の皆様に配布されると同時に協会のホームページに公開されますので、ご承知おき下さい。

AIRIES メールニュース会員募集中

協会では、毎月「AIRIES メールニュース」というメルマガを配信しています。このメルマガでは、協会が受託している事業内容の情報等を掲載しています。

現在、購読希望者を募集しています。配信をご希望の方は、お名前とメールアドレスをご記入のうえ、airies@airies.or.jp までお送りください。



業務日誌



(2021年12月)

- 12/1(水): CO2 対策事業 フォローアップ(F-up)ヒアリング
(Web 会議)
会誌打合せ(協会)
- 2(木): 推進費制度 追跡評価個別ヒアリング(Web 会議)
CO2 対策事業 中間評価ヒアリング(交通分野)(AP 東京丸ノ内/Web 会議)
CO2 対策事業 F-up ヒアリング(Web 会議)
- 3(金): CO2 対策事業 中間評価ヒアリング(再エネ分野)(AP 東京丸ノ内/Web 会議)
- 6(月): 推進費制度 追跡評価個別ヒアリング(Web 会議)
CO2 対策事業 中間評価ヒアリング(社会分野)(AP 東京丸ノ内/Web 会議)
- 7(火): 推進費制度 追跡評価個別ヒアリング(Web 会議)
CO2 対策事業 中間評価ヒアリング(建築分野)(AP 東京丸ノ内/Web 会議)
- 8(水): 推進費制度 制度評価 F-up 打合せ(Web 会議)
推進費制度 追跡評価個別ヒアリング(Web 会議)
- 9(木): 推進費制度 PD,PA,PO 情報交換会(第 2 回)を開催(AP 東京丸ノ内)
CO2 対策事業 現地視察(釜石市)
マイクロプラ事業 打合せ(Web 会議)
- 10(金): 推進費制度 追跡評価個別ヒアリング(Web 会議)
CO2 対策事業 応募相談会を開催(環境省)
マイクロプラ事業 打合せ(Web 会議)
- 13(月): 推進費制度 追跡評価個別ヒアリング(Web 会議)
マイクロプラ事業 打合せ(Web 会議)
- 14(火): 推進費制度 追跡評価個別ヒアリング(Web 会議)
CO2 対策事業 検討会に出席(Web 会議)
CO2 対策事業 打合せ(Web 会議)
- CO2 対策事業 環境省打合せ(Web 会議)
- 15(水): 推進費制度 第 3 回制度評価 F-up 専門部会を開催
(AP 虎ノ門/Web 会議)
- CO2 対策事業 F-up ヒアリング(Web 会議)
- 16(木): 推進費制度 追跡評価個別ヒアリング(Web 会議)
CO2 対策事業 検討会に出席(Web 会議)
CO2 対策事業 打合せ(環境省)
マイクロプラ事業 打合せ(Web 会議)
- 17(金): 推進費制度 追跡評価個別ヒアリング(Web 会議)
CO2 対策事業 打合せ(郡山市)
- 20(月): 推進費制度 追跡評価個別ヒアリング(Web 会議)
マイクロプラ事業 検討会を開催(Web 会議)
- 21(火): CO2 対策事業 F-up ヒアリング(Web 会議)
CO2 対策事業 打合せ(環境省)
- 22(水): CO2 対策事業 打合せ(環境省)
- 23(木): CO2 対策事業 F-up ヒアリング(Web 会議)
CO2 対策事業 検討会に出席(Web 会議)
CO2 対策事業 打合せ(Web 会議)
- 24(金): CO2 対策事業 第 2 回評価委員会を開催(AP 東京丸ノ内)
- 27(月): CO2 対策事業 検討会に出席(Web 会議)
- * 推進費制度: 環境研究総合推進費制度運営・検討業務
CO2 対策事業: CO2 排出削減対策強化誘導型技術開発・
実証事業管理・検討等事業
マイクロプラ事業: マイクロプラスチックに関するデータ共有
システムの要件定義書案等作成、技術的課題に係る検討、国際連携に係る検討等業務

編集・発行

一般社団法人国際環境研究協会

(日本学術会議協力学術研究団体)

〒110-0005 東京都台東区上野 1-4-4

TEL: 03-5812-2105

FAX: 03-5812-2106

E-mail: airies@airies.or.jp

Homepage: <http://www.airies.or.jp>